



## 今月の農家さん

時間をかけた分、  
増える喜び

野洲市吉川

かわばた りゅうすけ  
川端 隆介さん (38才)



野洲市吉川で水稻や小麦を育てる川端さん。就農6年目で、水稻は約13ha、小麦は約12ha作付けしています。

川端さんは、所属する野洲市青年農業者クラブの仲間や地域の人たちから様々な知識を学び、実践している真っ最中。成功や失敗を繰り返しながら、経験を積み重ねています。

今後の目標は、農産物の品質を向上させ、収

量を安定させる事だそうです。

農業の魅力について何うと「農業は、天気や自然が相手なので、思わぬ苦勞があります。しかし、種まきから長い時間をかけて育てた分、収穫の喜びはひとしおです」と川端さんは語ります。

最後に川端さんは「美しい田園風景をこれからも守り育てていけるよう、地域の人たちとともに頑張ります!」と話しました。

## 営農情報

### ◆水稲

令和2年産水稲栽培に向けた  
土づくりについて

「稲は地力でとる」といわれるように、土づくりは水稲を育てる上で最も大切な作業のひとつです。土づくりを行うと、登熟向上や稲体の活力維持などの効果があり、米の品質向上・収量増大が期待できます。

また、土づくりは、カドミウムの吸収抑制にも効果があります。土づくり肥料散布により、土壌のpHが高まることで、カドミウムが、植物の根から吸収されにくい状態になるためです。

そのため、作付予定地には必ず土づくり肥料(「とれ太郎」など)を散布し、食の安全を脅かすカドミウムを吸収させないようにしましょう。

### 稲わらのすき込みについて

圃場ほらばに稲わらをすき込むと、土壌中で分解されて腐植になり、やわらかく保肥力の高い土壌を作ることが出来ます。

また、稲わらに多く含まれるケイ酸には、稲の茎や葉を硬くして倒伏や病害虫に対する抵抗力を高める効果があり、非常に有用です。

なるべく年内にすき込みを行い、稲わらを十分に分解させましょう。

### ◆大豆

#### 大豆の収穫について

大豆の成熟期は、

- ①葉が完全に落ちる
- ②茎の大部分が褐色に変化する
- ③子実が品種特有の色を呈する
- ④茎を振ればカラカラと乾いた音がする時期です。

汎用コンバインでの収穫適期は、成熟期から1週間以上圃場で乾燥させ、茎がポキッと折れる頃です。ただし、収穫適期であっても、朝露が残っている時間の収穫は、粒が傷つきやすく品質低下の原因となります。天候などにもよりますが、おおよそ午前10時以降に、朝露が無くなったことを確認して収穫作業を行いましょう。

また、収穫前にイヌホオズキなどの雑草や青立ち株を除去して、汚損粒が発生しにくいようにしましょう。

